

平成30年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①単位制の利点をいかし、年次の共通科目を基本とした普通科教育を着実に展開するための教育課程編成の工夫と授業改善に取り組む。</p> <p>②生徒数が減少する中で、学校行事等の充実を図る。</p>	<p>①学校規模の縮小に対応した教育課程の工夫を行う。</p> <p>②アクティブラーニングを踏まえた授業改善を念頭に、さまざまな取組を行う。</p>	<p>①生徒及び教員の定数減をふまえ、選択科目の配置等を検討する。</p> <p>②中学校との相互授業参観を継続させるとともに、生徒参加型の授業をさらに進める。</p>	<p>①定数減をふまえた教育課程を、選択科目の見当も含め設定することができたか。</p> <p>②相互授業参観や授業評価において生徒の授業参加の意識が高まったか。(生徒による授業評価のポイント)</p>	<p>①選択科目を適切に設定し、生徒の希望に対応することができた。</p> <p>②中学校との相互授業参観を実施し、例年以上の参観者があった。また、授業研究についての研修会も実施した。</p>	<p>①選択した科目をきちんと修得までさせることができるように指導する。</p> <p>②1学年のみとなり、授業の数が減っていく中、授業研究のあり方を検討する必要がある。</p>	<p>①生徒募集停止に伴う生徒・職員の減少による影響を最小限にする努力や工夫がみられる。</p> <p>②近隣中学校との授業互見・授業研究研修を通してスキルアップを図り、生徒に還元することができた。生徒による授業評価結果の活用に工夫が欲しいところである。</p>	<p>①平成31年度の開講講座については、概ね生徒の希望に沿う形で開講ができる状況である。生徒数減の影響により、人数不足で未開講となった科目もあった。</p> <p>②他校種との交流は有意義で効果的なため来年度も継続する。教師個人レベルでの生徒による授業評価結果の活用法の検討が必要である。</p>	<p>①限定された状況の中で、開講講座について質の向上を図ることが最良の方策となる。</p> <p>②他校種との交流は日程調整を年度当初に行い、内容を充実させていく。また、生徒による授業評価については、データの公開を含め活用法を前向きに検討する。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①初期段階であってもすみやかに生徒指導・支援が行えるよう、職員全体による一貫したサポート体制の構築と充実を図る。</p> <p>②生徒数の減少に備え、活気ある学校生活を維持するため部活動加入促進を図る。</p>	<p>①生徒指導については、自分自身で身を正し、社会に通用するルールやマナーを守る生徒を育成する。</p> <p>②生徒支援は、複雑な問題を抱えているなか、全職員が連携して初期対応ができるような体制を整える。</p> <p>③生徒数の減少に備え、活気ある学校生活を維持するため部活動の維持促進を図る。</p>	<p>①生活委員会を中心としたマナーアップ運動などにより、生徒が主体となって安心・安全な学校づくりをする。</p> <p>②「SORA コミ」の積極的な周知により、生徒が自らSCを受ける環境づくりや、初期の段階でのSSWとの連携を速やかに実施する。</p> <p>③部活動にかかわるさまざまな環境をできうる限り整えることによって、活気ある学校生活を維持する。</p>	<p>①頭髪服装検査及び遅刻指導での指導した生徒数。</p> <p>②「SORA コミ」の利用件数とSCの受診数と継続数。</p> <p>③職員全員が部活動の顧問にかかわる体制づくりを進められたか。</p>	<p>①校則の追加や生活委員の活動により、生徒が「安心・安全」に過ごせる教育環境となった。遅刻数も低い数値で推移しており、生徒指導件数や近隣からの苦情件数も減少した。</p> <p>②カウンセリング受診数22名49件(平成29年度は18名44件)で増加。初期対応により複数回継続する生徒は減少した。</p> <p>③全職員の協力を得て、特に問題なく指導を進められた。しかし、職員数の減少、専門顧問の不足は現実問題として大きく、再編統合期の高校の特別活動をどのように保証するのか、校内のみの問題にとどまらないという印象を受ける。</p>	<p>①開校時より築いてきた「安心・安全」な教育環境を維持していくのが課題となる。</p> <p>②10期生は欠席過多の生徒が複数いることから、すみやかにSCに繋げていくことが必要である。</p> <p>③来年度はさらに職員数が半減し、実質的に部活動指導は限界を超えている。職員の好意にすぎるとは現状だが、その健康面等に配慮できるような体制づくりをどのように進められるか、問題は山積している。</p>	<p>①生徒の様子をみていると「安心・安全」な環境が保たれていることが窺える。</p> <p>SNSでのトラブルについても、しっかりと対応できている。</p> <p>②SC・SSWを活用し、生徒支援について重厚な体制が整えられている。</p> <p>③生徒・職員が減少する中で、合同チームの結成等で生徒の活動をしっかりと維持している。また、チアダンス部の2度の全国大会出場は立派である。</p>	<p>①指導体制の整備により、落ち着いた環境が保たれている。生活指導は日常の指導が不可欠なため、継続的な指導は必要である。</p> <p>②教育相談コーディネーターが良く機能しており、適切な支援が行われている。</p> <p>③チアダンス部の2度の全国大会出場など限られた条件の中、成果を出している。合同チームでの活動を含め、引率・指導体制に工夫が必要である。</p>	<p>①キャリア教育と連携した開発的生徒指導体制を構築することが望ましい。</p> <p>②生徒数が減少してはいるが、課題を抱える生徒は多く、相談件数も少なくない。今後もSC・SSWや市の支援課との連携は必須である。</p> <p>③部活動インストラクターの半期への集中配備や、後期からの顧問配備の再編成等で生徒の活動機会を保障する計画である。また、再編統合対象校への合同チーム編成の規約について、高体連・高野連への改善の働きかけが必要である。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(3月22日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①地域に根ざした社会形成者の育成につながるキャリア教育を行う。 ②妥協しない進路実現に向けた進路指導の充実を図る。	①多様な進路希望に応じた一人ひとりのニーズに対応することができる進路指導を行う。 ②学校規模の縮小に対応した効率的な進路指導を行う。	①進路希望別の説明会や面談を行い個に応じた進路指導を行う。 ②必要に応じて業者や上級学校等と連携した進路指導を行う。	①進路未定のまま卒業する生徒を最低限にとどめることができたか。 ②インターンシップや一日看護体験の参加者は増えたか。(前年度との比較)	①進路が未定のまま卒業する生徒を2年連続して一桁に抑えることができた。 ②インターンシップ参加者は前年度の21名から23名へとわずかではあるが増加した。	①10期生に関しては目標が定まっていなかった生徒が例年に比べ多いと考えられるので、例年以上にきめの細かい指導をする必要がある。 ②職員数が減少する中できめの細かい指導をするために、業者や上級学校協力を得る必要が今まで以上にある。	①個別面談の頻回実施、元Jリーガーの講演などの様々な取組の結果、進路未定者を最低限に留めることができています。 ②インターンシップ参加については、更なる広報や働きかけが必要である。	①きめ細かな進路指導により多くの生徒が進路決定することができている。10期生については、さらに細やかな個別指導が必要である。 ②インターンシップや看護体験などの参加者は微増しているが、増加させる工夫が必要である。	①全体指導とともに個別指導の機会の回数・内容を充実させる。業者の利用や卒業生などの協力を得る。 ②インターンシップや看護体験については、早い段階で志望進路や参加希望を集約し、積極的に参加を促進する。
4	地域等との協働	○家庭及び地域社会との協働による教育活動をさらに充実させ、地域の誇りたる学校の存在を維持する。	①生徒会や部活動生徒を中心に地域の行事等へ参加することで、地域の活性化と生徒の表現力の向上を図り、win-winの関係づくりを進める。 ②適切なゴミ分別を行い、ゴミの少量化と環境に配慮する意識を高める。	①地域の行事に生徒を参加させることで、地域に対する理解や貢献する意識を高めさせる。 ②地域貢献活動に伴う校内外の清掃活動を実施する。	①地域の行事に参加し地域に貢献したか。また、文化祭等の表現発表の場で地域に貢献できたか。(生徒・地域への聞き取り) ②環境に配慮する意識が高まったか。	①限られた部活動で工夫して行事に参加し、地域貢献に努めた。 ②生徒の美化に対する意識を高め、清潔な学校環境を保つことができた。また地域貢献活動として保護者とともに学校内外の美化活動を行った。	①部活動のほぼ半数が、夏までに活動が終了予定であり、活動の残る部活動の生徒もあるが、3年次生にとっては大切な進路学習があり、可能な範囲内で参加を促す。 ②再編に伴う多量の粗大ゴミが南ピロティに積み上げられた状態である。またジュースの缶やペットボトルの分別は課題として残っている。	①地域イベント参加や施設への訪問など多岐にわたって地域貢献した。また、正門をはじめとする学校花壇の植栽で、季節折々の花々で地域を華やかに彩った。あと1年であるが、地域貢献について力を尽くしてほしい。 ②完校に向けた物品整理に際し、地域へも呼びかけてゴミにせず、有効利用を工夫したい。	①地域・施設から多くの依頼があり、積極的に参加し地域貢献している。また、植栽などで地域の環境改善にも貢献している。 ②物品整理によるゴミの量は膨大である。再利用や譲渡・分別による資源化で処理量や経費を抑えたい。	①文科系部活動は、完校まで続くため、キャリア教育と連携しながら有志を募るなどの取組を通じて、地域貢献を継続したい。 ②地域への広報も含めて、不用品の再利用・譲渡・分別による資源化を推進したい。
5	学校管理 学校運営	○統合を控え、4年間生徒のために何事にも前向きかつ意欲的に取り組む職員集団をつくりあげる。	○効率的・効果的な教育活動を推進するため、情報機器やネットワーク等を適切に管理・整備し利用を促進する。	①職員数の減少に対応し、業務を効率的に行うためのポータルサイトの効果的な活用方法を模索する。 ②再編統合に向けた校内整理の中で、効果的に情報機器や施設を利用できるように配置の再編等を行う。	①ポータルサイトの活用状況 ②情報機器・施設の利用度	①ポータルサイトの利用率は平日100%となり、ポータルサイトを活用した情報伝達や情報共有が定着した。 ②PC教室等の施設を情報機器としてばかりでなく視聴覚機器としての利用も増えた。	②情報機器を利用しやすくする取組と、適切かつ正確な管理の両立に課題が残ったことから、管理システムの運用に工夫が必要である。	②情報機器の有効な利用により、ペーパーレス・業務軽減・情報共有の迅速化ができて、円滑な業務遂行ができています。	②情報機器の有効な利用により、ペーパーレス・業務軽減・情報共有の迅速化ができて、円滑で適切な業務遂行ができた。今後は、管理システムの運用に一層の工夫が必要である。	②職員数の減少化による業務負担増大に対し、更なる情報機器の効果的活用を推進し、業務負担の軽減化を図る。